



東小つうしん



— 学校・家庭・地域のみんなで育む「東っ子」 —

自分の持ち味を伸ばす、可能性を発見する夏休みに

校長 小樋山 寿幸

いよいよ、子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。どんな夏休みを過ごすでしょうか。子どもたち一人一人やりたいことがあるでしょう。私としては、ぜひ、自分の持ち味を伸ばす、あるいは自分の可能性を発見する夏休みにしてほしいです。そこで、様々なコンクールに挑戦してみることをお勧めします。

学校には、「リサイクル工作コンクール」や「マンガ感想文コンクール」など、様々な団体からコンクールの案内が参ります。また、インターネットなどで検索してみると、企業などもコンクールを行っていることが分かります。それらから、自分の関心のあるコンクールに挑戦してみるのはいかがでしょうか。（コンクールによっては参加賞がいただける場合もあります。入賞すると図書券など賞品をいただけることもあります。）

コンクールは一つの例ですが、これに限らず自分の関心のあることにチャレンジすることは、自分の持ち味を伸ばすチャンスです。また、自分の可能性を発見できるチャンスでもあります。

さらに、これまで続けている「こと（習い事やスポーツ、読書など）」を、夏休みも継続することは、強い自信になるとともに、自分の持ち味を伸ばすこととなります。

「まず、やってみる！」「続ける」「繰り返す」ことを大事にし、「自分を伸ばす、再発見する」夏休みにしてくれたなら最高です。





聴き合う授業を目指して



今年度、学校では次の3つのことに力を入れて、職員みんなで「聴き合う授業づくり（聴き合う学校づくり）」を進めています。

まず、「教師自身が良い聴き手になること」です。「教師の活動の中心は『話す』ことではなく『聴く』ことにある」という考えのもと、「教師が良い聴き手のモデルを示すこと」で、子どもを良い聴き手に成長させていこうとするものです。

次に、「子どもが小さな声で発言した時、『もう一回大きな声で』と決して言わないこと」です。『〇〇さんが素敵なことを言ったよ。みんなでもう一回聴こうね』と聴き手を丁寧に指導するものです。

そして、「一人の子どもが重要なことを発言した時、他の子どもを指名して『あの子が言ったこと、あなたの言葉でもう一回説明して』とリボイスを求めること」です。このようにして、子ども同士をつなぎながら、学習を進めていくというものです。

(以上は、東京大学名誉教授 佐藤 学 先生のお考えを踏まえています。)

また、丁寧に「聴く」ことは、相手を大切にしていることの現れでもあります。それは、安心して学習したり、学校生活を送ったりすることができる環境を創り出すことにつながります。

これからは、知っていることを再生するだけではなく、仲間の考えをつなぎ（例えば、「それって、どういうこと？詳しく教えて」と問い返したり、「私は、テキストのこの場所からこんな風に考えたんだけど、どう思う？」と考えを示したりするなどして）、これを繰り返しながら、自分の考えをさらに高めていくことが、重視されていきます。(下は、イメージ図)



6、7月に、外部の方への授業公開、職員全員研修として、1年生道徳、5年1組算数の授業研修を行いました。